

## 16 急性脳梗塞患者に対する早期リハビリテーション開始率

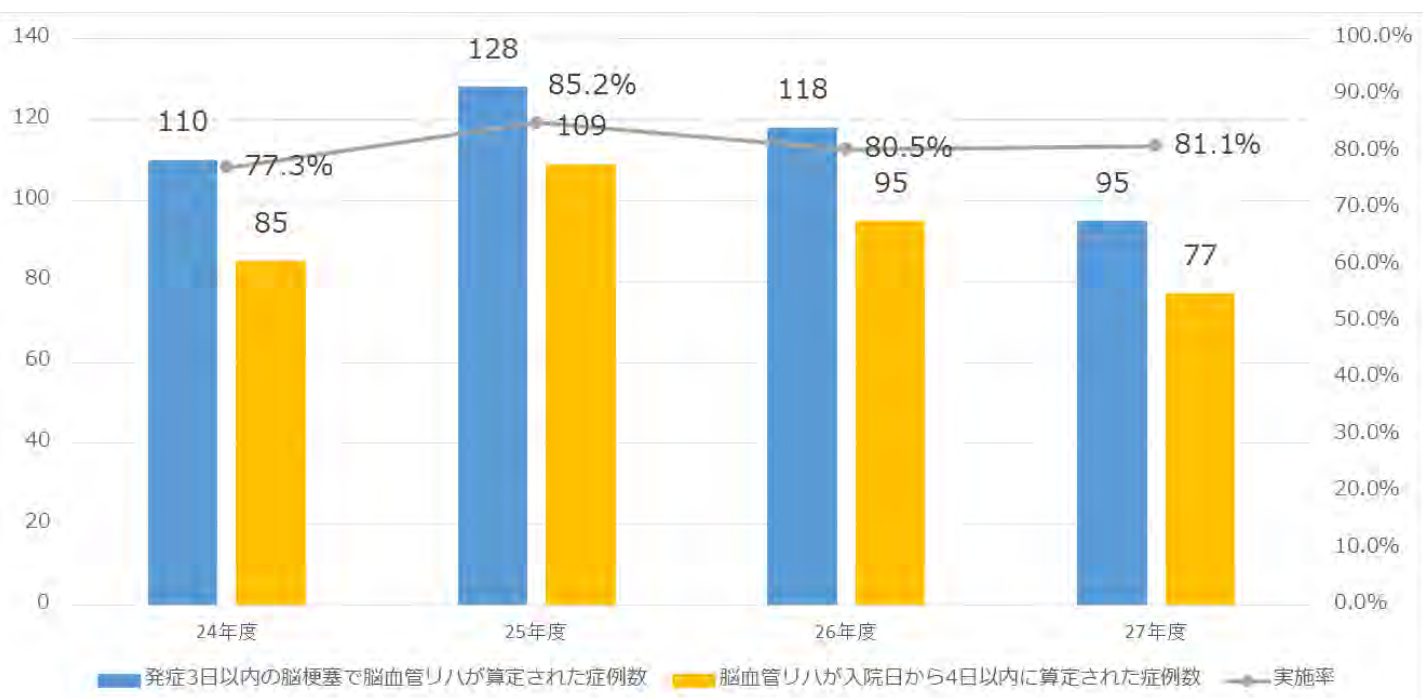
### 指標の解説

- 脳梗塞の後遺症によって寝たきりになることで、筋萎縮・筋力低下、関節拘縮、肺炎、褥瘡、抑うつ等の症状があらわれる廃用症候群が起こる。
- 廃用症候群の発生を防止するためには、早期からのリハビリテーションが必要になり、日常生活の自立と早期の社会復帰につなげていくことが求められる。

分子：分母のうち「脳血管疾患等リハビリテーション料」が入院4日目以内に算定された症例数

分母：医療資源を最も投入した傷病名が「脳梗塞」で、発症が3日以内の症例のうち、「脳血管疾患等リハビリテーション料」が算定された症例数

参考値：85.1%  
 分子：分母のうち、入院してから4日以内にリハビリテーションが開始された患者数  
 分母：急性脳梗塞（発症時期が3日以内）の退院患者のうち、リハビリテーションが実施された退院患者数  
 （引用元：「国立病院機構 臨床評価指標Ver.3 2015」 2014年平均値）



27年度は、脳血管疾患の救急受入体制が十分に整備できず、結果として、急性期脳卒中患者の受入件数が大きく減少した。